



## Press Release

秋田労働局職業安定部職業対策課発表  
令和4年6月24日

報道関係者 各位

【照会先】

秋田労働局職業安定部職業対策課  
課長 丹 悟  
高齢者対策担当官 矢野 清光  
(電話) 018-883-0010

### 令和3年「高年齢者雇用状況等報告」の集計結果を公表します

～70歳までの高年齢者就業確保措置実施済企業割合 30.0% (全国14位) ～

～70歳以上まで働ける制度のある企業割合 48.5% (8年連続全国1位) ～

秋田労働局(局長 川口 秀人)では、このたび、令和3年「高年齢者雇用状況等報告」(令和3年6月1日現在)を取りまとめましたので、公表します。

- |                                      |                       |
|--------------------------------------|-----------------------|
| ・報告企業数                               | 2,039社 (常用労働者21人以上規模) |
| * 前回調査の1,371社(常用労働者31人以上規模)から報告対象が拡大 |                       |
| ・「高年齢者雇用確保措置導入企業割合」                  | 99.6% (前年比0.3P減少)     |
| ・「70歳までの就業確保措置実施済企業割合」               | 30.0% (今回から集計)        |
| ・「66歳以上まで働ける制度のある企業割合」               | 50.2% (前年比2.1P増加)     |
| ・「70歳以上まで働ける制度のある企業割合」               | 48.5% (前年比2.6P増加)     |

「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」では、高年齢者が年齢に関わりなく働き続けることができる「生涯現役社会の実現」を目指して、企業に「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」のいずれかの措置(高年齢者雇用確保措置)を、65歳まで講じるよう義務付けています。

さらに、令和3年4月1日からは、70歳までを対象として、「定年制の廃止」や「定年の引上げ」、「継続雇用制度の導入」といった雇用による措置や、「業務委託契約の導入」、「社会貢献事業に従事できる制度の導入」のいずれかの措置(高年齢者就業確保措置)を講じるよう努めることを義務付けています。

今回の集計結果は、従業員21人以上の企業2,039社からの報告に基づき、このような高年齢者の雇用等に関する措置について、令和3年6月1日時点での企業における実施状況等をまとめたものです。この集計では、従業員21人～300人規模を「中小企業」、301人以上規模を「大企業」としています(※)。

今後とも、生涯現役で働くことのできる社会の実現に向けたさらなる取り組みを行うとともに、雇用確保措置を実施していない企業に対して、秋田労働局及び県内ハローワークによる計画的かつ重点的な個別指導を実施していきます。

※ 令和2年6月1日時点の集計結果では、従業員31人以上の企業の状況をまとめていましたが、今回の集計結果では21人以上の企業の状況をまとめています。このため、11ページ以降の表においては、比較可能な場合には前年の数値を記載しています。

## 【集計結果の主なポイント】

### I 65歳までの高年齢者雇用確保措置を実施済の企業の状況

#### ① 高年齢者雇用確保措置の実施状況 (11ページ表1、12ページ表3-1)

65歳までの高年齢者雇用確保措置を実施済の企業は2,031社 (99.6%)

高年齢者雇用確保措置を「継続雇用制度の導入」により実施している企業は66.4%

#### ② 65歳定年企業の状況 (13ページ表4)

65歳定年企業は494社 (24.2%)

- ・ 中小企業では24.9%
- ・ 大企業では6.8%

### II 66歳以上まで働ける制度のある企業の状況

#### ① 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況 (14ページ表5-1)

70歳までの高年齢者就業確保措置を実施済の企業は612社 (30.0%) **【全国14位】**  
(全国平均は25.6%)

- ・ 中小企業では30.3%
- ・ 大企業では21.9%

#### ② 66歳以上まで働ける制度のある企業の状況 (15ページ表6)

66歳以上まで働ける制度のある企業は1,024社 (50.2%) **【全国2位】** (全国平均は38.3%)

- ・ 中小企業では50.1%
- ・ 大企業では54.8%

#### ③ 70歳以上まで働ける制度のある企業の状況 (15ページ表7)

70歳以上まで働ける制度のある企業は988社 (48.5%)  
**【8年連続全国1位】** (全国平均は36.6%)

- ・ 中小企業では48.3%
- ・ 大企業では53.4%

#### ④ 定年制廃止企業の状況および66歳以上定年企業の状況 (13ページ表4)

定年制の廃止企業は76社 (3.7%)

- ・ 中小企業では3.9%
- ・ 大企業では0.0%

詳細は、次ページ以降をご参照ください。

<集計対象>

- 常時雇用する労働者が21人以上の企業2,039社
  - 中小企業 (21~300人規模) : 1,966社 (うち31~300人規模 : 1,329社)
  - 大企業 (301人以上規模) : 73社

## 1 高年齢者雇用確保措置の実施状況

### (1) 全体の状況（11ページ表1）

高年齢者雇用確保措置（以下「雇用確保措置」<sup>(注1)</sup>という。）を実施済の企業は、報告した企業全体で2,031社（99.6%）であり、前年より0.3ポイント減少となった。

雇用確保措置が未実施である企業は新たに8社で、21人～30人規模企業で7社、31人～300人規模企業で1社であり指導を行っている。

#### (注1) 雇用確保措置

高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第9条第1項に基づき、定年を65歳未満に定めている事業主は、雇用する高年齢者の65歳までの安定した雇用を確保するため、以下のいずれかの措置（高年齢者雇用確保措置）を講じなければならない。

①定年制の廃止、②定年の引上げ、③継続雇用制度（再雇用制度・勤務延長制度等）の導入（※）

（※）継続雇用制度とは、現に雇用している高年齢者が希望するときは、当該高年齢者をその定年後も引き続いて雇用する制度をいう。なお、平成24年度の法改正により、平成25年度以降、制度の適用者は原則として「希望者全員」となった。ただし、平成24年度までに労使協定により継続雇用制度の対象者を限定する基準を定めていた場合は、その基準を適用できる年齢を令和7年度までに段階的に引き上げているところ（経過措置）。

### (2) 企業規模別の状況（11ページ表1）

企業規模別に雇用確保措置を実施済の企業の割合を見ると、大企業では100.0%（73社）、中小企業では99.6%（1,958社）（31人以上規模の企業では99.9%）であった。

(参考) 31人以上規模企業（令和3年度は21人以上規模企業）

(%)

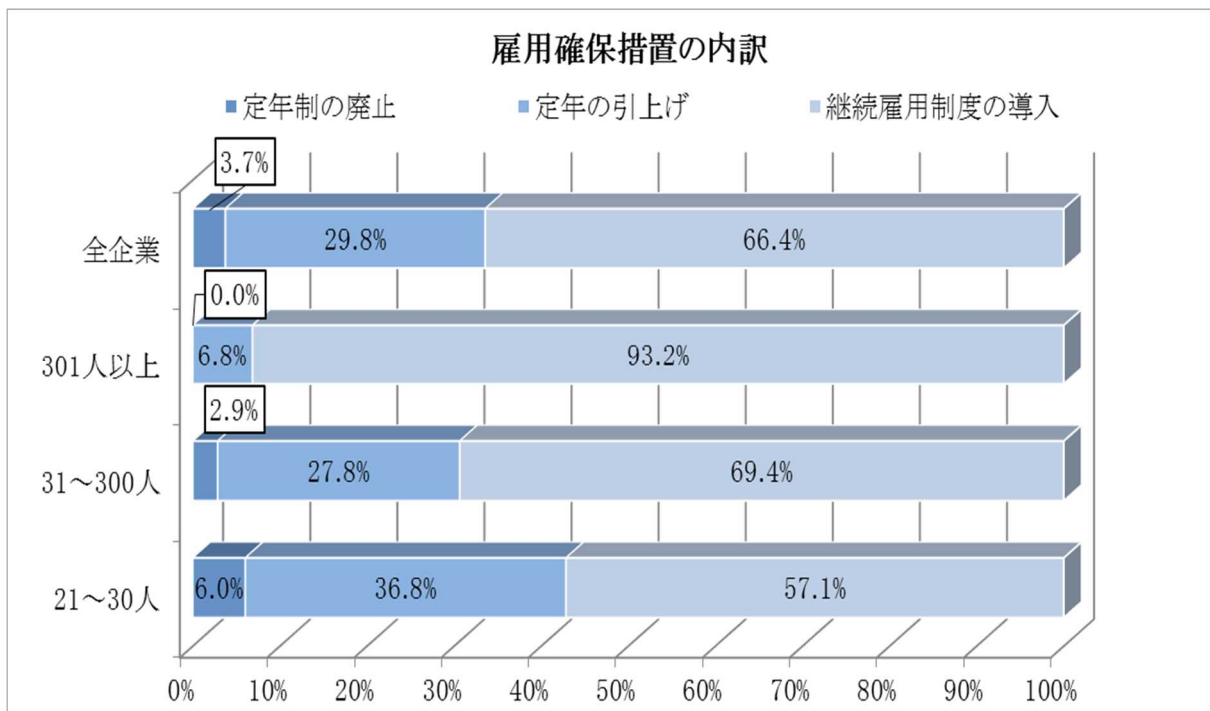
平成								令和		
23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年
96.5	98.3	98.9	99.4	99.5	99.9	99.6	99.9	99.9	99.9	99.6

※平成25年4月に制度改正（継続雇用制度の対象者を限定できる仕組みの廃止）があったため、平成24年と25年の数値は単純比較できない。

### (3) 雇用確保措置を実施済の企業の内訳（12ページ表3-1）

報告した全企業について、雇用確保措置の措置内容別に見ると、定年制度の見直し（下記①、②）よりも、継続雇用制度の導入（下記③）により雇用確保措置を講じている企業が多かった。

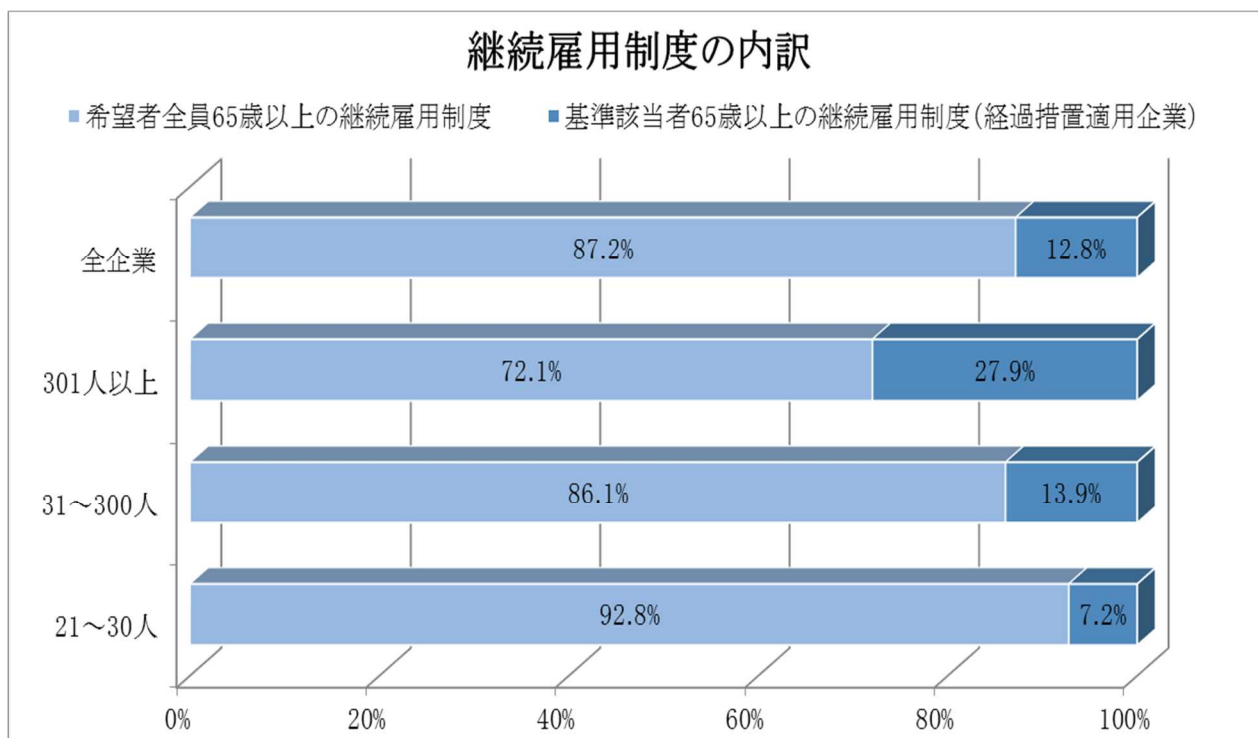
- ① 定年制の廃止は76社（3.7%）
- ② 定年の引上げは606社（29.8%）
- ③ 継続雇用制度の導入は1,349社（66.4%）



(4) 65歳以上の継続雇用制度のある企業の状況（12 ページ表 3-2）

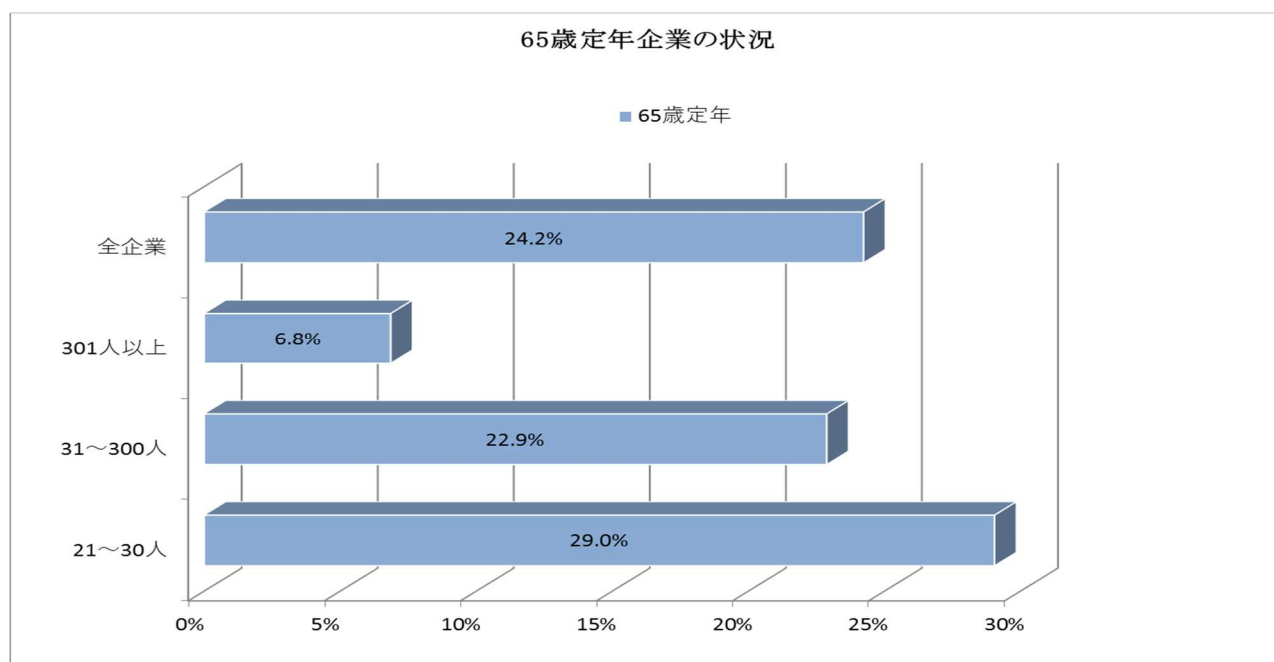
65歳以上の「継続雇用制度の導入」により雇用確保措置を講じている企業(1,349社)を対象に、継続雇用制度の内容を見ると、希望者全員を対象とする制度を導入している企業は1,176社(87.2%)であった。

一方、高年齢者雇用安定法一部改正法の経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準がある継続雇用制度を導入している企業(経過措置適用企業)の割合は、報告した全企業では12.8%であったが、大企業に限ると27.9%であった。



## 2 65歳定年企業の状況（13ページ表4）

報告した全企業のうち、定年を65歳とする企業は494社（24.2%）であり、中小企業では24.9%、大企業では6.8%であった。



## 3 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況

### (1) 70歳までの高年齢者就業確保措置の実施状況（14ページ表5-1）

報告した全企業において、70歳までの高年齢者就業確保措置（以下「就業確保措置」<sup>(注2)</sup>という。）を実施済の企業は612社（30.0%）であり、中小企業では30.3%、大企業では21.9%であった。

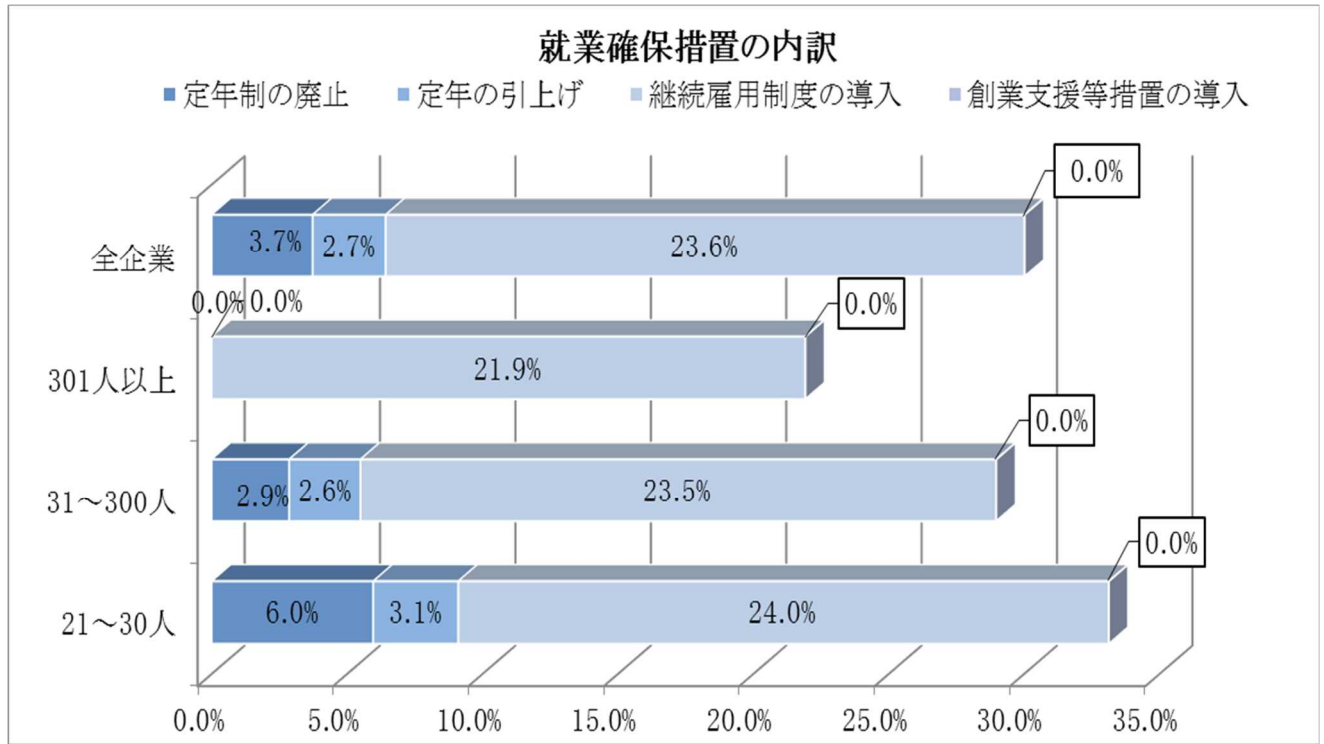
#### (注2) 就業確保措置

高年齢者等の雇用の安定等に関する法律第10条の2に基づき、定年を65歳以上70歳未満に定めている事業主または65歳までの継続雇用制度（70歳以上まで引き続き雇用する制度を除く）を導入している事業主は、その雇用する高年齢者について、次に掲げるいずれかの措置を講ずることにより、65歳から70歳までの安定した雇用を確保するよう努めなければならない。

①70歳までの定年の引上げ、②定年制の廃止、③70歳までの継続雇用制度（再雇用制度・勤務延長制度）の導入、④70歳まで継続的に業務委託契約を締結する制度の導入、⑤70歳まで継続的に社会貢献事業に従事できる制度の導入（事業主が自ら実施する社会貢献事業又は事業主が委託、出資（資金提供）等する団体が行う社会貢献事業）

### (2) 70歳までの就業確保措置を実施済の企業の内訳

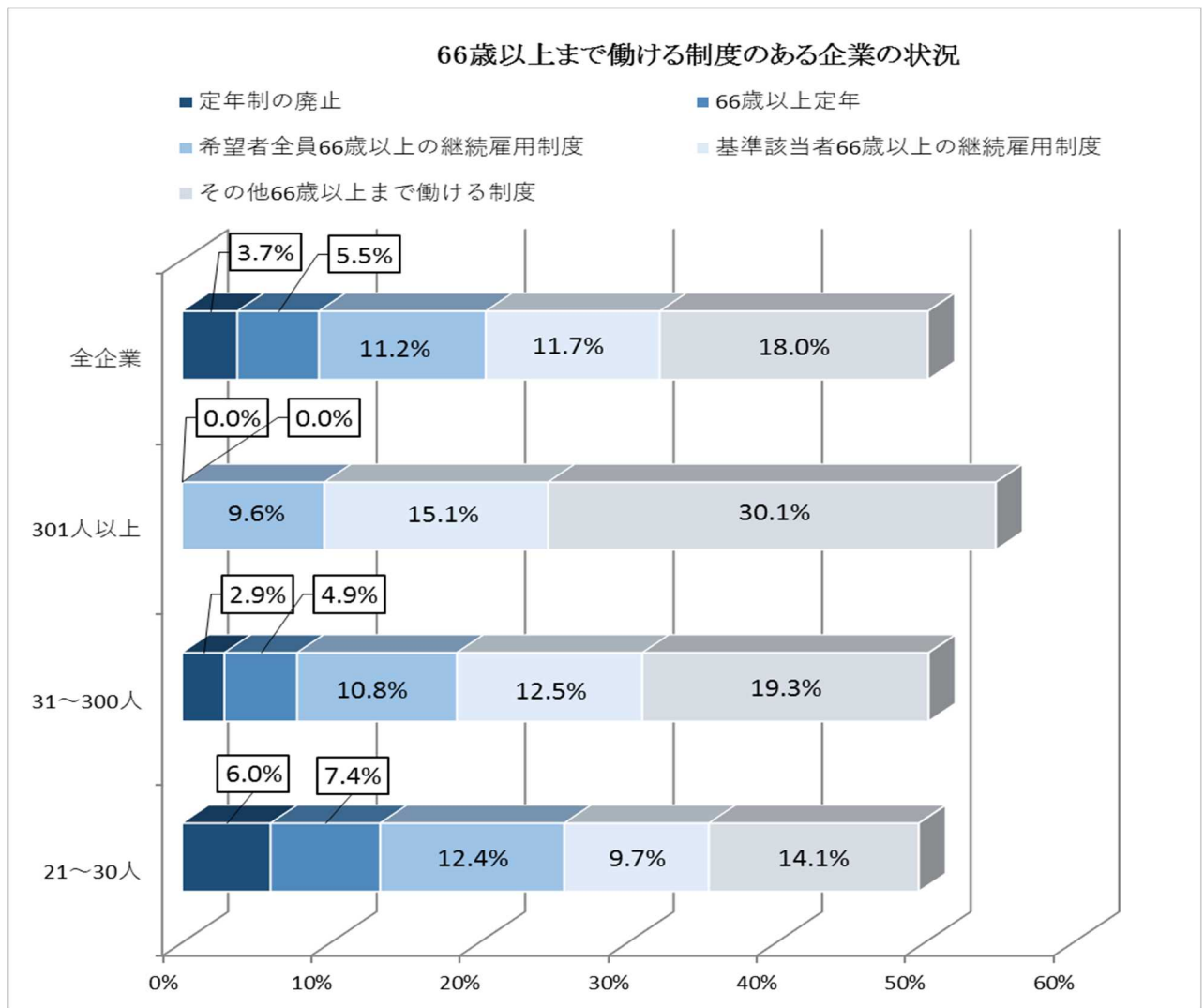
- ① 定年制の廃止は76社（3.7%）
- ② 定年の引上げは55社（2.7%）
- ③ 継続雇用制度の導入は481社（23.6%）
- ④ 創業支援等措置の導入は0社（0.0%）



#### 4 66歳以上まで働ける制度のある企業の状況

(1) 66歳以上まで働ける制度のある企業の状況（15ページ表6）

報告した全企業において、66歳以上まで働ける制度のある企業は1,024社（50.2%）であり、中小企業では50.1%、大企業では54.8%であった。



※ 66歳以上定年制度と66歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「66歳以上定年」のみに計上している。

※ 「その他66歳以上まで働ける制度」とは、業務委託等その他企業の実情に応じて何らかの仕組みで66歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

### (2) 70歳以上まで働ける制度のある企業の状況 (15 ページ表 7)

報告した全企業において、70歳以上まで働ける制度のある企業は988社(48.5%)であり、中小企業では48.3%、大企業では53.4%であった。

### (3) 定年制の廃止および66歳以上定年企業の状況 (13ページ表 4)

報告した全企業において、定年制を廃止している企業は76社(3.7%)、定年を66~69歳とする企業は57社(2.8%)、定年を70歳以上とする企業は55社(2.7%)であり、これを企業規模別に見ると、次のとおりであった。

#### ① 中小企業

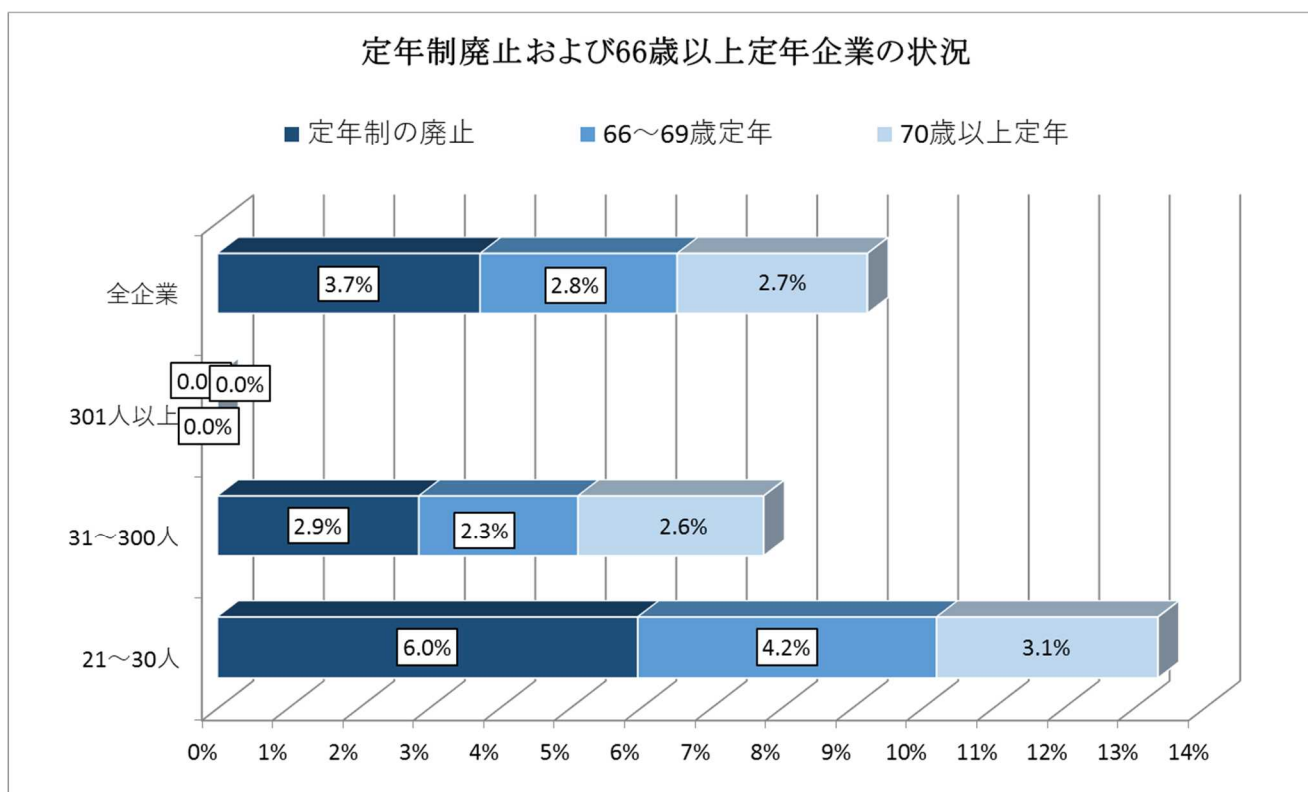
- ・ 定年制を廃止している企業は3.9%
- ・ 定年を66~69歳とする企業は2.9%
- ・ 定年を70歳以上とする企業は2.8%

#### ② 大企業

- ・ 定年制を廃止している企業は0.0%



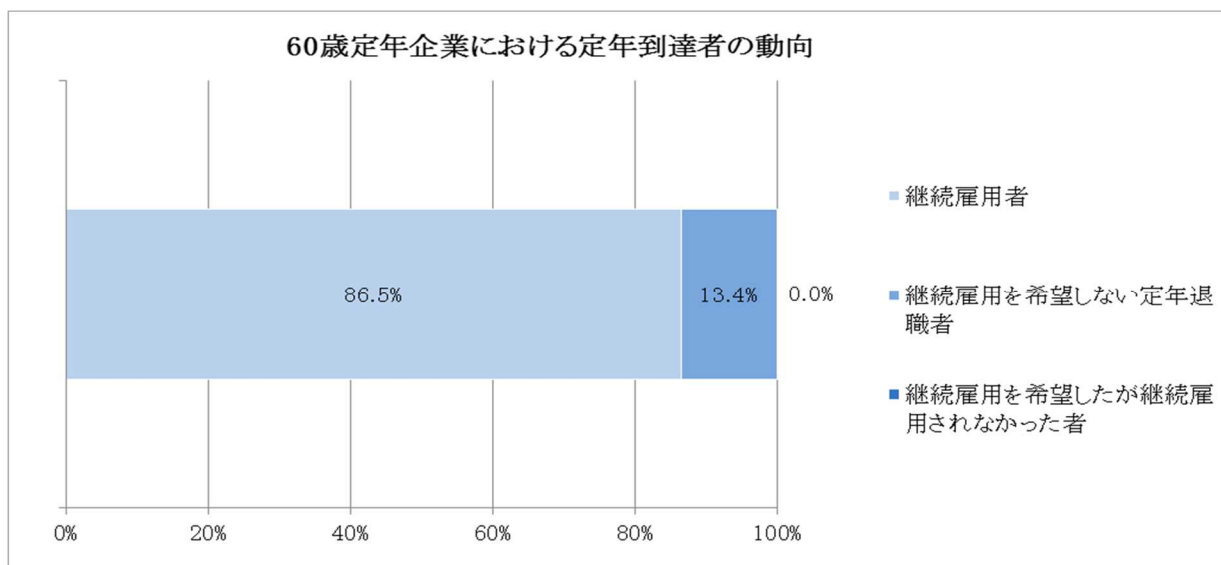
- ・ 定年を66～69歳とする企業は0.0%
- ・ 定年を70歳以上とする企業は0.0%



## 5 60歳定年到達者の動向

(1) 60歳定年企業における定年到達者の動向（16ページ表8-1）

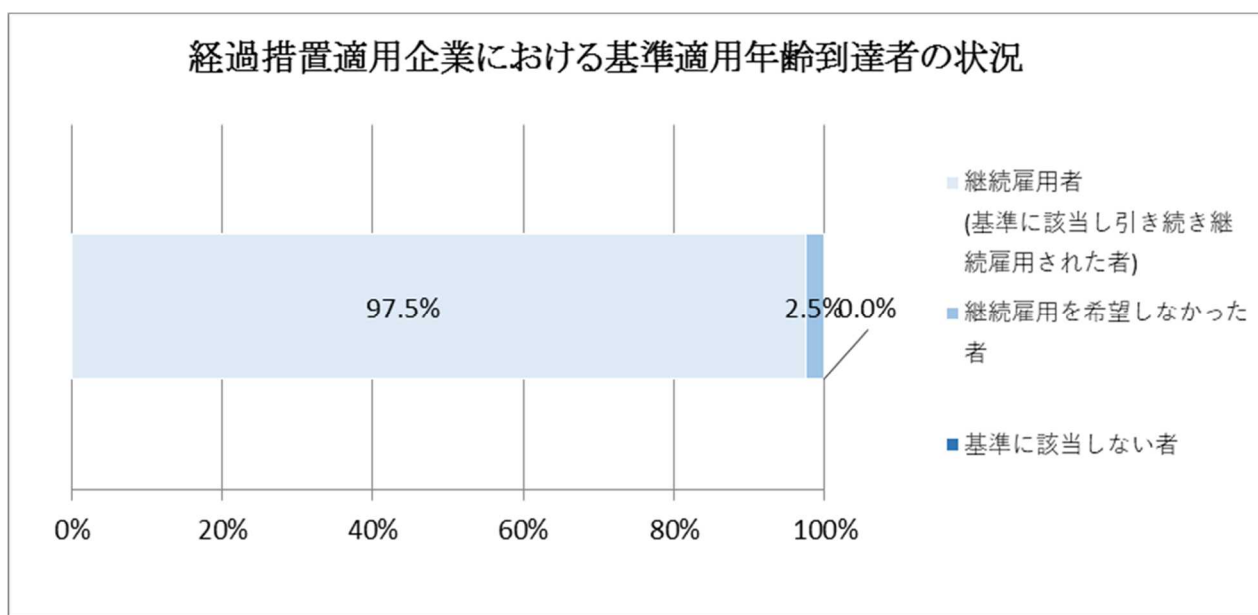
60歳定年企業において、過去1年間（令和2年6月1日から令和3年5月31日）に定年に到達した者は、2,534人であった。このうち、継続雇用された者は86.5%（うち子会社・関連会社等での継続雇用者は1.0%）、継続雇用を希望しない定年退職者は13.4%、継続雇用を希望したが継続雇用されなかった者は0.0%であった。





(2) 継続雇用の対象者を限定する基準に係る経過措置の適用状況（16ページ表8－2）

経過措置に基づく対象者を限定する基準がある企業において、過去1年間（令和2年6月1日から令和3年5月31日）に、基準を適用できる年齢（平成31年4月1日から令和4年3月31日までは63歳以上）に到達した者は、243人であった。このうち、基準に該当し引き続き継続雇用された者は97.5%、継続雇用の更新を希望しなかった者は2.5%、継続雇用を希望したが基準に該当せずに継続雇用が終了した者は0.0%であった。



## 6 高年齢常用労働者の状況 (17 ページ表 9)

### (1) 年齢階級別の常用労働者数について

報告した全企業における常用労働者数180,574人のうち、60歳以上の常用労働者数は35,352人で19.6%を占めている。年齢階級別に見ると、60～64歳が19,637人、65歳以上が15,715人うち70歳以上が4,524人であった。

### (2) 高年齢労働者の推移 (31人以上規模企業)

31人以上規模企業における60歳以上の常用労働者数は31,344人であり、平成21年と比較すると、22,232人増加している。

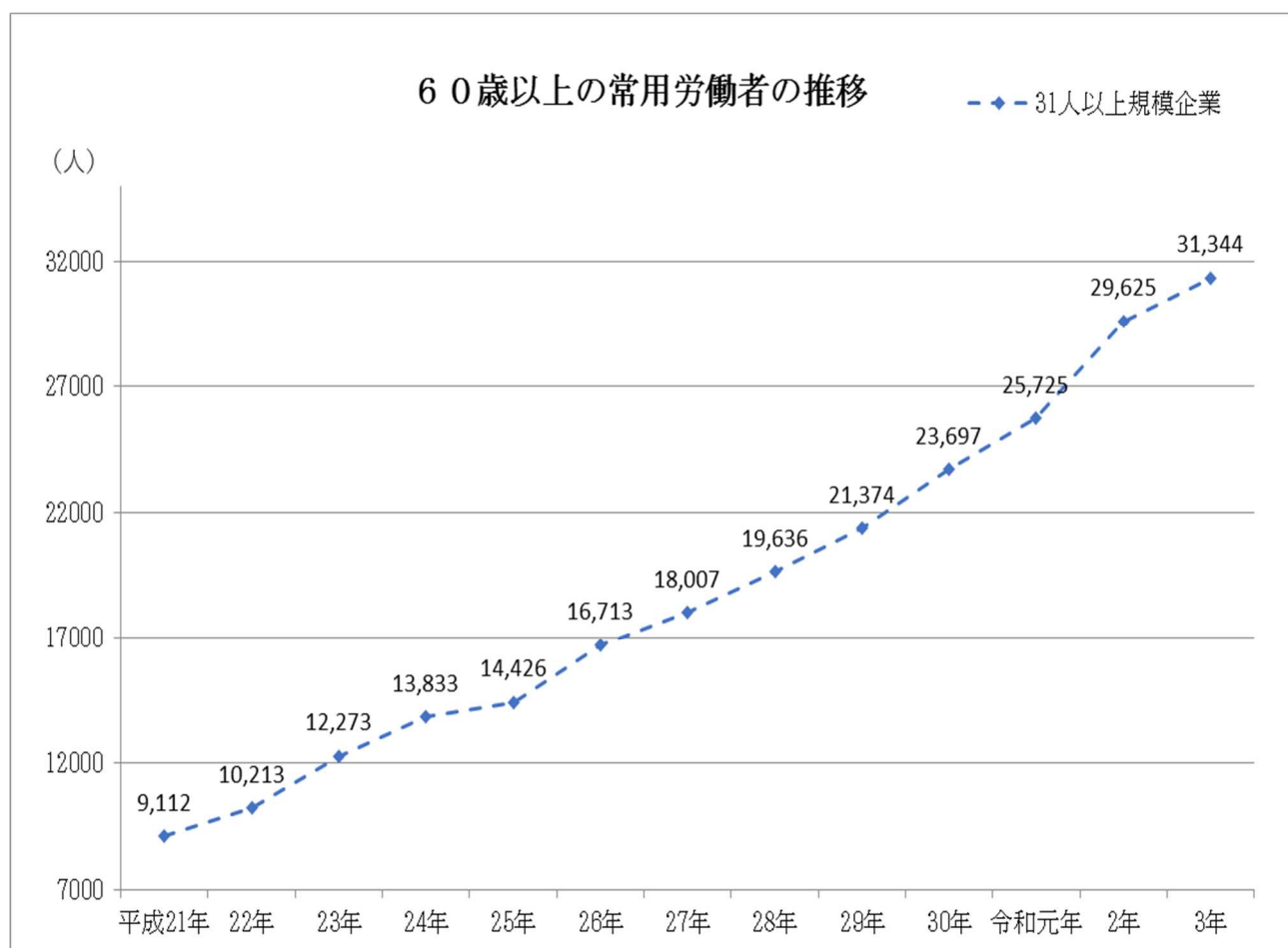


表1 雇用確保措置の実施状況

(社、%)

	①実施済み		②未実施		合計(①+②)	
21人以上 総計	2,031	-	8	-	2,039	-
	99.6%	-	0.4%	-	100.0%	-
31人以上 総計	1,401	(1,370)	1	(1)	1,402	(1,371)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
21~300人	1,958	-	8	-	1,966	-
	99.6%	-	0.4%	-	100.0%	-
21~30人	630	-	7	-	637	-
	98.9%	-	1.1%	-	100.0%	-
31~300人	1,328	(1,295)	1	(1)	1,329	(1,296)
	99.9%	(99.9%)	0.1%	(0.1%)	100.0%	(100.0%)
301人以上	73	(75)	0	(0)	73	(75)
	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	100.0%	(100.0%)

※( )内は、令和2年6月1日現在の数値。

表2 雇用確保措置の規模別・産業別実施状況

(%)

	合 計	①実施済企業割合		②未実施企業割合	
		21人以上	31人以上	21人以上	31人以上
規模別	合 計	99.6%	(99.9%)	0.4%	(0.1%)
	21~30人	98.9%	-	1.1%	-
	31~50人	99.8%	(99.8%)	0.2%	(0.2%)
	51~100人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	101~300人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	301~500人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	501~1,000人	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	1,001人以上	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
産業別	合 計	99.6%	(99.9%)	0.4%	(0.1%)
	農、林、漁業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	鉱業、採石業、砂利採取業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	建設業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	製造業	99.5%	(99.7%)	0.5%	(0.3%)
	電気・ガス・熱供給・水道業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	情報通信業	96.2%	(100.0%)	3.8%	(0.0%)
	運輸、郵便業	99.2%	(100.0%)	0.8%	(0.0%)
	卸売業、小売業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	金融業、保険業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	不動産業、物品賃貸業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	学術研究、専門・技術サービス業	96.8%	(100.0%)	3.2%	(0.0%)
	宿泊業、飲食サービス業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
	生活関連サービス業、娯楽業	98.5%	(100.0%)	1.5%	(0.0%)
	教育、学習支援業	98.1%	(100.0%)	1.9%	(0.0%)
	医療、福祉	99.8%	(100.0%)	0.2%	(0.0%)
	複合サービス事業	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)
サービス業(他に分類されないもの)	100.0%	(100.0%)	0.0%	(0.0%)	
その他	-	-	-	-	

※( )内は、令和2年6月1日現在の数値。

表3-1 雇用確保措置実施企業における措置内容の内訳

(社、%)

	①定年制の廃止	②定年の引上げ	③継続雇用制度の導入	合計(①+②+③)
21人以上総計	76 3.7%	606 29.8%	1,349 66.4%	2,031 100.0%
31人以上総計	38 2.7%	374 26.7%	989 70.6%	1,401 100.0%
21~300人	76 3.9%	601 30.7%	1,281 65.4%	1,958 100.0%
21~30人	38 6.0%	232 36.8%	360 57.1%	630 100.0%
31~300人	38 2.9%	369 27.8%	921 69.4%	1,328 100.0%
301人以上	0 0.0%	5 6.8%	68 93.2%	73 100.0%

※( )内は、令和2年6月1日現在の数値。  
 ※「合計」は、表1の「①実施済み」に対応している。  
 ※「②定年の引上げ」は、65歳以上の定年の年齢を設けている企業を、「③継続雇用制度の導入」は、定年年齢は65歳未満だが継続雇用制度の上限年齢を65歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

表3-2 継続雇用制度の内訳

(社、%)

	① 希望者全員65歳以上の 継続雇用制度	② 基準該当者65歳以上の 継続雇用制度	合計(①+②)
21人以上総計	1,176 87.2%	173 12.8%	1,349 100.0%
31人以上総計	842 85.1%	147 14.9%	989 100.0%
21~300人	1,127 88.0%	154 12.0%	1,281 100.0%
21~30人	334 92.8%	26 7.2%	360 100.0%
31~300人	793 86.1%	128 13.9%	921 100.0%
301人以上	49 72.1%	19 27.9%	68 100.0%

※( )内は、令和2年6月1日現在の数値。  
 ※「合計」は、表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表3-3 継続雇用先の内訳

(社、%)

	① 自社のみ	自社以外の継続雇用先がある企業								合計 (①~⑧)
		② 自社、子会社等	③ 自社、関連 会社等	④ 自社、子会社 等、関連会社等	⑤ 子会社等	⑥ 子会社等、 関連会社等	⑦ 関連会社等	⑧ その他の会社を 含む	小計 (②~⑧)	
21人以上 総計	1,303 96.6%	24 1.8%	11 0.8%	8 0.6%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	46 3.4%	1,349 100.0%
31人以上 総計	950 96.1%	19 1.9%	10 1.0%	8 0.8%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	39 3.9%	989 100.0%
21~300人	1,241 96.9%	20 1.6%	9 0.7%	8 0.6%	1 0.1%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	40 3.1%	1,281 100.0%
21~30人	353 98.1%	5 1.4%	1 0.3%	0 0.0%	1 0.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 1.9%	360 100.0%
31~300人	888 96.4%	15 1.6%	8 0.9%	8 0.9%	0 0.0%	1 0.1%	1 0.1%	0 0.0%	33 3.6%	921 100.0%
301人以上	62 91.2%	4 5.9%	2 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 8.8%	68 100.0%

※( )内は、令和2年6月1日現在の数値。  
 ※「⑧その他の会社を含む」とは、自社以外の継続雇用先がある企業のうち、子会社等及び関連会社等以外の他社を継続雇用先としている企業を計上している(継続雇用先がその他の会社のみの場合も含む)。  
 ※「合計」は、表3-1の「③継続雇用制度の導入」に対応している。

表4 定年制の廃止および65歳以上定年企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	②65歳以上定年			合計 (①+②)	報告した全ての企業
		65歳	66～69歳	70歳以上		
21人以上 総計	76 -	494 -	57 -	55 -	682 -	2,039 -
	3.7% -	24.2% -	2.8% -	2.7% -	33.4% -	100.0% -
31人以上 総計	38 (35)	309 (284)	30 (30)	35 (30)	412 (379)	1,402 (1,371)
	2.7% (2.6%)	22.0% (20.7%)	2.1% (2.2%)	2.5% (2.2%)	29.4% (27.6%)	100.0% (100.0%)
21～300人	76 -	489 -	57 -	55 -	677 -	1,966 -
	3.9% -	24.9% -	2.9% -	2.8% -	34.4% -	100.0% -
21～30人	38 -	185 -	27 -	20 -	270 -	637 -
	6.0% -	29.0% -	4.2% -	3.1% -	42.4% -	100.0% -
31～300人	38 (35)	304 (279)	30 (30)	35 (30)	407 (374)	1,329 (1,296)
	2.9% (2.7%)	22.9% (21.5%)	2.3% (2.3%)	2.6% (2.3%)	30.6% (28.9%)	100.0% (100.0%)
301人以上	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	73 (75)
	0.0% (0.0%)	6.8% (6.7%)	0.0% (0.0%)	0.0% (0.0%)	6.8% (6.7%)	100.0% (100.0%)

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値。

※ 「②65歳以上定年」は、表3-1の「②定年の引上げ」に対応している。

※ 「報告した全ての企業」は、表1の「合計」に対応している。

表5-1 70歳までの就業確保措置の実施状況

(社、%)

	①70歳までの就業確保措置実施済み					②就業確保措置相当の措置実施	③その他未実施	合計 (①+②+③)								
	定年廃止	定年の引上げ	継続雇用制度の導入	創業支援等措置の導入												
21人以上総計	612	-	76	-	55	-	44	-	1,383	-	2,039	-				
	30.0%	-	3.7%	-	2.7%	-	23.6%	-	0.0%	-	2.2%	-	67.8%	-	100.0%	-
31人以上総計	401	-	38	-	35	-	328	-	0	-	29	-	972	-	1,402	-
	28.6%	-	2.7%	-	2.5%	-	23.4%	-	0.0%	-	2.1%	-	69.3%	-	100.0%	-
21~300人	596	-	76	-	55	-	465	-	0	-	42	-	1,328	-	1,966	-
	30.3%	-	3.9%	-	2.8%	-	23.7%	-	0.0%	-	2.1%	-	67.5%	-	100.0%	-
21~30人	211	-	38	-	20	-	153	-	0	-	15	-	411	-	637	-
	33.1%	-	6.0%	-	3.1%	-	24.0%	-	0.0%	-	2.4%	-	64.5%	-	100.0%	-
31~300人	385	-	38	-	35	-	312	-	0	-	27	-	917	-	1,329	-
	29.0%	-	2.9%	-	2.6%	-	23.5%	-	0.0%	-	2.0%	-	69.0%	-	100.0%	-
301人以上	16	-	0	-	0	-	16	-	0	-	2	-	55	-	73	-
	21.9%	-	0.0%	-	0.0%	-	21.9%	-	0.0%	-	2.7%	-	75.3%	-	100.0%	-

※「①70歳までの就業確保措置実施済み」とは、法令の定めに基づいた適正な手続きを経て、定年制の廃止、定年の引上げ、継続雇用制度もしくは創業支援等措置の導入のいずれかの措置を講ずることにより、70歳までの就業機会の確保を実施している場合を指す。なお、「定年の引上げ」は70歳以上の定年の定めを設けている企業を、「継続雇用制度の導入」は定年年齢が70歳未満だが継続雇用制度の上限年齢を70歳以上としている企業を、「創業支援等措置の導入」は定年年齢及び継続雇用制度の年齢が70歳未満だが創業支援等措置の年齢を70歳以上としている企業を、それぞれ計上している。

※「②就業確保措置相当の措置実施」とは、「①70歳までの就業確保措置実施済み」と同様の措置を70歳未満の年齢まで導入している場合を指す。

※本集計は、原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の「21人以上総計」「31人以上総計」「21~300人」「21~30人」「31~300人」「創業支援等措置の導入」については、小数点第2位以下を切り上げとしている。

表5-2 70歳までの就業確保措置の規模別・産業別実施状況

(%)

	①実施済企業割合		②未実施企業割合						
	合計		合計						
規模別	合計	30.0%	-	70.0%	-				
	21~30人	33.1%	-	66.9%	-				
	31~50人	34.1%	-	65.9%	-				
	51~100人	26.5%	-	73.5%	-				
	101~300人	22.3%	-	77.7%	-				
	301~500人	22.5%	-	77.5%	-				
	501~1,000人	20.8%	-	79.2%	-				
	1,001人以上	22.2%	-	77.8%	-				
産業別	合計	30.0%	-	28.6%	-	70.0%	-	71.4%	-
	農、林、漁業	35.5%	-	35.0%	-	64.5%	-	65.0%	-
	鉱業、採石業、砂利採取業	25.0%	-	25.0%	-	75.0%	-	75.0%	-
	建設業	46.0%	-	47.4%	-	54.0%	-	52.6%	-
	製造業	22.3%	-	20.8%	-	77.7%	-	79.2%	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	0.0%	-	0.0%	-	100.0%	-	100.0%	-
	情報通信業	0.0%	-	0.0%	-	100.0%	-	100.0%	-
	運輸、郵便業	37.1%	-	35.4%	-	62.9%	-	64.6%	-
	卸売業、小売業	24.3%	-	21.6%	-	75.7%	-	78.4%	-
	金融業、保険業	27.3%	-	30.0%	-	72.7%	-	70.0%	-
	不動産業、物品賃貸業	17.2%	-	19.0%	-	82.8%	-	81.0%	-
	学術研究、専門・技術サービス業	16.1%	-	20.8%	-	83.9%	-	79.2%	-
	宿泊業、飲食サービス業	39.5%	-	37.3%	-	60.5%	-	62.7%	-
	生活関連サービス業、娯楽業	16.9%	-	18.6%	-	83.1%	-	81.4%	-
	教育、学習支援業	17.0%	-	13.5%	-	83.0%	-	86.5%	-
	医療、福祉	33.3%	-	33.5%	-	66.7%	-	66.5%	-
	複合サービス事業	14.3%	-	14.3%	-	85.7%	-	85.7%	-
	サービス業(他に分類されないもの)	33.1%	-	33.8%	-	66.9%	-	66.3%	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-

表6 66歳以上まで働ける制度のある企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	② 66歳以上 定年	③ 希望者全員 66歳以上 継続雇用	④ 基準該当者 66歳以上 継続雇用	⑤ その他66歳以上 まで働ける制度	合計① (①~③)	合計② (①~④)	合計③ (①~⑤)	報告した全ての企業
21人以上 総計	76 - 3.7% -	112 - 5.5% -	229 - 11.2% -	239 - 11.7% -	368 - 18.0% -	417 - 20.5% -	656 - 32.2% -	1,024 - 50.2% -	2,039 - 100.0% -
31人以上 総計	38 (35) 2.7% (2.6%)	65 (60) 4.6% (4.4%)	150 (128) 10.7% (9.3%)	177 (172) 12.6% (12.5%)	278 (264) 19.8% (19.3%)	253 (223) 18.0% (16.3%)	430 (395) 30.7% (28.8%)	708 (659) 50.5% (48.1%)	1,402 (1,371) 100.0% (100.0%)
21~300人	76 - 3.9% -	112 - 5.7% -	222 - 11.3% -	228 - 11.6% -	346 - 17.6% -	410 - 20.9% -	638 - 32.5% -	984 - 50.1% -	1,966 - 100.0% -
21~30人	38 - 6.0% -	47 - 7.4% -	79 - 12.4% -	62 - 9.7% -	90 - 14.1% -	164 - 25.7% -	226 - 35.5% -	316 - 49.8% -	637 - 100.0% -
31~300人	38 (35) 2.9% (2.7%)	65 (60) 4.9% (4.6%)	143 (122) 10.8% (9.4%)	166 (164) 12.5% (12.7%)	256 (237) 19.3% (18.3%)	246 (217) 18.5% (16.7%)	412 (381) 31.0% (29.4%)	668 (618) 50.3% (47.7%)	1,329 (1,296) 100.0% (100.0%)
301人以上	0 (0) 0.0% (0.0%)	0 (0) 0.0% (0.0%)	7 (6) 9.6% (8.0%)	11 (8) 15.1% (10.7%)	22 (27) 30.1% (36.0%)	7 (6) 9.6% (8.0%)	18 (14) 24.7% (18.7%)	40 (41) 54.8% (54.7%)	73 (75) 100.0% (100.0%)

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値。

※ 66歳以上定年制度と66歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「②66歳以上定年」のみに計上している。

※ 「⑤その他66歳以上まで働ける制度」とは、業務委託等その他企業の実情に応じて何らかの仕組みで66歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

※ 「報告した全ての企業」は、表1の「合計」に対応している。

表7 70歳以上まで働ける制度のある企業の状況

(社、%)

	① 定年制の廃止	② 70歳以上 定年	③ 希望者全員 70歳以上 継続雇用	④ 基準該当者 70歳以上 継続雇用	⑤ その他70歳以上 まで働ける制度	合計① (①~③)	合計② (①~④)	合計③ (①~⑤)	報告した全ての企業
21人以上 総計	76 - 3.7% -	55 - 2.7% -	236 - 11.6% -	245 - 12.0% -	376 - 18.4% -	387 - 18.0% -	612 - 30.0% -	988 - 48.5% -	2,039 - 100.0% -
31人以上 総計	38 (35) 2.7% (2.6%)	35 (30) 2.5% (2.2%)	147 (130) 10.5% (9.5%)	181 (174) 12.9% (12.7%)	281 (260) 20.0% (19.0%)	220 (195) 15.7% (14.2%)	401 (369) 28.6% (26.9%)	682 (629) 48.8% (45.9%)	1,402 (1,371) 100.0% (100.0%)
21~300人	76 - 3.9% -	55 - 2.8% -	231 - 11.7% -	234 - 11.9% -	353 - 18.0% -	362 - 18.4% -	596 - 30.3% -	949 - 48.3% -	1,966 - 100.0% -
21~30人	38 - 6.0% -	20 - 3.1% -	89 - 14.0% -	64 - 10.0% -	95 - 14.9% -	147 - 23.1% -	211 - 33.1% -	306 - 48.0% -	637 - 100.0% -
31~300人	38 (35) 2.9% (2.7%)	35 (30) 2.6% (2.3%)	142 (125) 10.7% (9.6%)	170 (166) 12.8% (12.8%)	258 (233) 19.4% (18.0%)	215 (190) 16.2% (14.7%)	385 (356) 29.0% (27.5%)	643 (589) 48.4% (45.4%)	1,329 (1,296) 100.0% (100.0%)
301人以上	0 (0) 0.0% (0.0%)	0 (0) 0.0% (0.0%)	5 (5) 6.8% (6.7%)	11 (8) 15.1% (10.7%)	23 (27) 31.5% (36.0%)	5 (5) 6.8% (6.7%)	16 (13) 21.9% (17.3%)	39 (40) 53.4% (53.3%)	73 (75) 100.0% (100.0%)

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値。

※ 70歳以上定年制度と70歳以上の継続雇用制度の両方の制度を持つ企業は、「②70歳以上定年」のみに計上している。

※ 「⑤その他70歳以上まで働ける制度」とは、業務委託等その他企業の実情に応じて何らかの仕組みで70歳以上まで働くことができる制度を導入している場合を指す。

※ 「報告した全ての企業」は、表1の「合計」に対応している。



**表8-1 60歳定年企業における定年到達者等の状況**

	企業数 (社)	定年到達者総数 (人)	定年退職者数 (継続雇用を希望しない者)		継続雇用者数			うち子会社等・関連会社等での 継続雇用者数			定年退職者数 (継続雇用を希望したが継続雇 用されなかった者)		継続雇用の 終了による 離職者数 (人)
60歳定年企業で 定年到達者がいる企業等	827	2,534	340	13.4% (14.6%)	2,193	86.5% (85.3%)	26	1.0% (1.7%)	1	0.0% (0.1%)	187		
うち女性	464	1,227	177	14.4% (13.9%)	1,050	85.6% (86.0%)	6	0.5% (1.2%)	0	0.0% (0.1%)	64		

※ 本集計は、過去1年間(令和2年6月1日から令和3年5月31日)に60歳定年企業において定年年齢に到達した者及び継続雇用制度における上限年齢に到達したことによる離職者の数について集計している。

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値(31人以上規模企業の状況)。

※ 令和3年の数値は、21人以上規模企業の状況であり、令和2年と単純な比較はできない。

**表8-2 経過措置に基づく継続雇用制度の対象者を限定する基準の適用状況**

	企業数 (社)	基準を適用できる 年齢に到達した者 の総数 (人)	継続雇用終了者数 (継続雇用の更新を希望しない 者)		継続雇用者数 (基準に該当し引き続き継続雇 用された者)			継続雇用終了者数 (基準に該当しない者)		
経過措置適用企業で基準適用 年齢到達者(63歳)がいる企業	82	243	6	2.5% (8.4%)	237	97.5% (90.3%)	0	0.0% (1.3%)		
うち女性	48	103	3	2.9% (8.1%)	100	97.1% (89.5%)	0	0.0% (2.3%)		

※ 本集計は、令和2年6月1日から令和3年5月31日に経過措置適用企業において基準適用年齢に到達した者について集計している。

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値(31人以上規模企業の状況)。

※ 令和3年の数値は、21人以上規模企業の状況であり、令和2年と単純な比較はできない。

表9 年齢別常用労働者数

(人)

		年齢計		60歳以上合計		60～64歳		65歳以上		うち70歳以上	
31人以上 規模企業	平成21年	136,124人	100.0	9,112人	100.0	7,132人	100.0	1,980人	100.0	-	-
	平成22年	137,178人	(100.8)	10,213人	(112.1)	8,094人	(113.5)	2,119人	(107.0)	-	-
	平成23年	146,250人	(107.4)	12,273人	(134.7)	10,076人	(141.3)	2,197人	(111.0)	-	-
	平成24年	150,086人	(110.3)	13,833人	(151.8)	11,162人	(156.5)	2,671人	(134.9)	-	-
	平成25年	149,290人	(109.7)	14,426人	(158.3)	11,364人	(159.3)	3,062人	(154.6)	-	-
	平成26年	154,166人	(113.3)	16,713人	(183.4)	12,744人	(178.7)	3,969人	(200.5)	-	-
	平成27年	156,695人	(115.1)	18,007人	(197.6)	13,148人	(184.4)	4,859人	(245.4)	-	-
	平成28年	157,166人	(115.5)	19,636人	(215.5)	13,742人	(192.7)	5,894人	(297.7)	-	-
	平成29年	155,388人	(114.2)	21,374人	(234.6)	14,202人	(199.1)	7,172人	(362.2)	-	-
	平成30年	156,914人	(115.3)	23,697人	(260.1)	15,122人	(212.0)	8,575人	(433.1)	-	-
	令和元年	157,532人	(115.7)	25,725人	(282.3)	15,658人	(219.5)	10,067人	(508.4)	-	-
	令和2年	163,957人	(120.4)	29,625人	(325.1)	17,203人	(241.2)	12,422人	(627.4)	3,227人	(100.0)
令和3年	164,533人	(120.9)	31,344人	(344.0)	17,693人	(248.1)	13,651人	(689.4)	3,792人	(117.5)	
21人以上 規模企業	令和3年	180,574人	-	35,352人	-	19,637人	-	15,715人	-	4,524人	-

※「31人以上規模企業」の( )は、平成21年を100とした場合の比率(「うち70歳以上」は令和2年を100とした場合の比率)

表10 都道府県別の状況

	報告した 全ての企業		雇用確保措置 実施済企業割合		70歳までの 就業確保措置 実施済企業割合			66歳以上まで働ける 制度のある企業割合				70歳以上まで働ける 制度のある企業割合			
	3年度	2年度	3年度	2年度	3年度	順位	2年度	3年度	順位	2年度	順位	3年度	順位	2年度	順位
1 北海道	9,128 社	(6,260 社)	99.5%	(99.9%)	29.1%	17	-	41.1%	24	(34.4%)	32	39.7%	20	(32.7%)	30
2 青森	2,638 社	(1,767 社)	99.2%	(99.9%)	31.8%	8	-	42.1%	17	(39.0%)	11	39.9%	19	(36.2%)	12
3 岩手	2,592 社	(1,813 社)	99.9%	(99.8%)	32.7%	3	-	45.1%	7	(39.2%)	10	43.1%	6	(37.1%)	10
4 宮城	3,878 社	(2,689 社)	99.6%	(99.9%)	29.7%	16	-	42.2%	16	(36.5%)	19	39.9%	18	(33.8%)	21
5 秋田	2,039 社	(1,371 社)	99.6%	(99.9%)	30.0%	14	-	50.2%	2	(48.1%)	1	48.5%	1	(45.9%)	1
6 山形	2,255 社	(1,623 社)	99.4%	(99.9%)	25.5%	33	-	39.1%	36	(33.8%)	35	36.9%	36	(31.5%)	36
7 福島	3,697 社	(2,454 社)	99.3%	(99.8%)	28.6%	20	-	42.1%	18	(36.6%)	18	39.5%	21	(33.7%)	24
8 茨城	3,940 社	(2,913 社)	99.9%	(100.0%)	30.0%	15	-	39.3%	35	(34.0%)	33	37.1%	34	(32.0%)	34
9 栃木	3,255 社	(2,093 社)	99.8%	(100.0%)	28.4%	21	-	40.2%	29	(35.5%)	26	38.6%	27	(33.5%)	26
10 群馬	3,998 社	(2,714 社)	99.8%	(100.0%)	29.1%	18	-	37.1%	40	(33.5%)	37	35.6%	38	(31.7%)	35
11 埼玉	8,315 社	(5,622 社)	99.0%	(99.9%)	30.2%	13	-	41.6%	19	(37.6%)	14	40.1%	16	(35.7%)	14
12 千葉	6,780 社	(4,794 社)	99.9%	(99.9%)	31.1%	10	-	43.9%	11	(39.6%)	8	42.4%	10	(37.8%)	7
13 東京	38,531 社	(29,666 社)	99.9%	(99.9%)	19.3%	46	-	29.5%	47	(25.7%)	47	28.2%	47	(24.3%)	47
14 神奈川	10,880 社	(7,385 社)	99.5%	(99.9%)	25.2%	35	-	37.1%	39	(31.5%)	40	35.6%	39	(29.7%)	40
15 新潟	4,767 社	(3,317 社)	100.0%	(100.0%)	24.4%	37	-	41.0%	25	(36.7%)	17	39.0%	24	(34.9%)	15
16 富山	2,486 社	(1,792 社)	99.9%	(100.0%)	18.6%	47	-	44.3%	10	(39.5%)	9	42.6%	8	(37.2%)	9
17 石川	2,570 社	(1,848 社)	99.8%	(100.0%)	26.8%	26	-	37.3%	38	(31.3%)	41	35.6%	40	(29.1%)	43
18 福井	1,832 社	(1,232 社)	100.0%	(100.0%)	27.2%	24	-	39.4%	34	(33.4%)	38	36.6%	37	(31.1%)	37
19 山梨	1,474 社	(1,032 社)	99.7%	(100.0%)	25.5%	32	-	36.6%	41	(33.5%)	36	34.7%	42	(32.1%)	33
20 長野	3,955 社	(2,832 社)	100.0%	(100.0%)	26.5%	27	-	42.8%	13	(37.8%)	13	41.3%	13	(36.0%)	13
21 岐阜	4,069 社	(2,730 社)	99.9%	(100.0%)	33.0%	2	-	45.6%	5	(41.0%)	5	44.1%	4	(38.8%)	4
22 静岡	6,864 社	(4,969 社)	99.9%	(99.8%)	27.6%	23	-	40.9%	26	(36.2%)	23	38.9%	25	(33.8%)	20
23 愛知	13,894 社	(10,157 社)	100.0%	(100.0%)	26.2%	28	-	41.3%	22	(35.8%)	24	39.3%	22	(33.5%)	27
24 三重	3,044 社	(2,093 社)	100.0%	(100.0%)	30.4%	11	-	44.3%	8	(38.6%)	12	42.5%	9	(36.6%)	11
25 滋賀	2,149 社	(1,462 社)	99.2%	(99.7%)	25.5%	34	-	40.7%	27	(34.6%)	31	38.4%	30	(32.6%)	31
26 京都	4,449 社	(3,079 社)	99.6%	(99.9%)	23.0%	43	-	35.2%	44	(31.0%)	42	33.8%	44	(29.4%)	42
27 大阪	18,557 社	(12,992 社)	99.7%	(99.9%)	21.6%	45	-	33.2%	46	(28.9%)	45	31.6%	46	(27.1%)	45
28 兵庫	7,752 社	(5,640 社)	99.5%	(99.9%)	22.5%	44	-	34.4%	45	(30.1%)	44	32.6%	45	(27.9%)	44
29 奈良	1,597 社	(1,157 社)	100.0%	(99.6%)	32.4%	5	-	45.4%	6	(40.4%)	6	42.9%	7	(37.6%)	8
30 和歌山	1,627 社	(1,099 社)	99.4%	(100.0%)	27.1%	25	-	39.5%	33	(35.2%)	27	37.0%	35	(32.8%)	29
31 鳥取	1,103 社	(795 社)	100.0%	(100.0%)	26.0%	29	-	40.3%	28	(33.8%)	34	37.3%	32	(30.4%)	38
32 島根	1,442 社	(999 社)	99.4%	(99.9%)	37.2%	1	-	50.5%	1	(42.5%)	3	48.1%	2	(40.1%)	3
33 岡山	3,611 社	(2,459 社)	99.4%	(99.9%)	28.1%	22	-	42.4%	14	(36.3%)	21	40.7%	15	(33.7%)	23
34 広島	5,515 社	(3,847 社)	99.7%	(99.8%)	23.5%	41	-	39.0%	37	(34.9%)	28	37.3%	31	(32.9%)	28
35 山口	2,443 社	(1,713 社)	99.7%	(100.0%)	25.9%	31	-	42.4%	15	(40.3%)	7	40.8%	14	(38.5%)	6
36 徳島	1,306 社	(883 社)	100.0%	(100.0%)	32.2%	6	-	41.4%	20	(36.5%)	20	39.1%	23	(33.7%)	22
37 香川	2,061 社	(1,489 社)	99.6%	(100.0%)	31.5%	9	-	43.4%	12	(37.5%)	15	41.7%	12	(34.9%)	16
38 愛媛	2,629 社	(1,772 社)	99.2%	(99.7%)	23.2%	42	-	41.3%	21	(36.2%)	22	40.0%	17	(34.8%)	17
39 高知	1,312 社	(900 社)	99.9%	(100.0%)	24.3%	38	-	36.0%	42	(30.8%)	43	34.9%	41	(29.4%)	41
40 福岡	9,396 社	(6,530 社)	99.9%	(100.0%)	26.0%	30	-	40.1%	30	(35.6%)	25	38.5%	28	(33.9%)	19
41 佐賀	1,696 社	(1,079 社)	99.2%	(99.7%)	28.9%	19	-	41.2%	23	(33.4%)	39	38.4%	29	(30.1%)	39
42 長崎	2,678 社	(1,804 社)	99.5%	(99.7%)	25.1%	36	-	40.0%	31	(34.8%)	30	38.6%	26	(33.6%)	25
43 熊本	3,242 社	(2,163 社)	99.2%	(99.8%)	23.8%	39	-	39.6%	32	(34.8%)	29	37.3%	33	(32.3%)	32
44 大分	2,297 社	(1,533 社)	100.0%	(100.0%)	32.5%	4	-	48.0%	3	(43.4%)	2	46.3%	3	(40.9%)	2
45 宮崎	2,205 社	(1,581 社)	99.9%	(99.9%)	30.2%	12	-	46.1%	4	(41.2%)	4	43.8%	5	(38.6%)	5
46 鹿児島	3,152 社	(2,120 社)	99.9%	(99.9%)	32.1%	7	-	44.3%	9	(37.0%)	16	42.0%	11	(34.6%)	18
47 沖縄	2,959 社	(1,889 社)	99.5%	(99.7%)	23.7%	40	-	35.2%	43	(28.0%)	46	34.3%	43	(26.9%)	46
全国計	232,059 社	(164,151 社)	99.7%	(99.9%)	25.6%	-	-	38.3%	-	(33.4%)	-	36.6%	-	(31.5%)	-

※ ( )内は、令和2年6月1日現在の数値(31人以上規模企業の状況)。

※ 令和3年の数値は、21人以上規模企業の状況であり、令和2年と単純な比較はできない。

※ 本集計は、原則小数点第2位以下を四捨五入しているが、本表の「雇用確保措置実施済企業割合」については、小数第2位以下を四捨五入することで100%となる場合は、小数点第2位以下を切り捨てとしている。

※ 「70歳までの就業確保措置導入企業」は表5-1の①に、「66歳以上まで働ける制度のある企業」は表6に、「70歳以上まで働ける制度のある企業」は表7にそれぞれ対応している。